


# Report 2026

Tohoku Electric Power Co.,Inc.

# 目次

DX Report 2026


DX Report 2026 のリリースに寄せて 03
DX Report 2026 の位置付け 04
中長期ビジョン実現に向けた DX 推進 05
DX で目指す姿 06
DX・AI プラットフォーム 07
スケジュール 08


## 事例紹介

### 経営モデル


・経営管理業務の高度化 11
・重要会議アシスタント 12
・監査・ガバナンス高度化 AI 13


### 業務モデル


・AI Work Assist（秘書 AI） 15
・プレゼンテーション作成 AI 16
・基準等・文書文字チェック AI 17
・社内ドキュメント検索 AI 18
・議事録作成 AI 19


### 現場モデル


・ロボット・AI 技術を活用した設備パトロール自動化 21
・不安全行動者検知 AI カメラ 22
・労災防止 AI の全体像 23
・危険個所のヒートマップ表示 AI 24
・ドローンによるパトロール業務省力化 25
・3D モデリングデータを活用した設備保全等の効率化 26
・発電所の通信ネットワーク 27
・広域傾斜検知システム 28


## 新たな価値創出


■データセンター事業（生成 AI インフラサービス） 30
■グループ企業 DX 推進に向けた活動 31
■東北大学との人財育成協定 32
■DX 人財の成長ストーリー 33
■DX の推進体制 34
■まとめ（DX の現在地と力点） 35

# DX Report 2026のリリースに寄せて



東北電力株式会社
執行役員 DX推進部長
大友 洋一

『DX Report 2026』をご覧いただき,誠にありがとうございます。DX推進部長として,ひと言,ご挨拶申し上げます。

私たち東北電力グループを取り巻く環境は,人口減少や労働力不足,エネルギー事業をめぐる環境変化に加え,AIをはじめとするデジタル技術の急速な進展など,大きな転換期を迎えています。このような環境変化に対応し,当社グループの持続的な成長を実現していくため,DXを企業変革の重要なドライバーとして位置付け,推進してまいりました。

振り返ると,当社のDXはごく少人数のメンバーによるデータ活用の挑戦から始まりました。その後,経営層をはじめ,主管部門や現場の皆さまの理解と協力を得ながら,試行錯誤を繰り返し,適用範囲を徐々に拡大してきました。現在では当社グループ全体の取り組みへと発展し,「よりそうnext+PLUS」の実現に向け,デジタル技術を活用した業務や働き方の変革が着実に広がっています。

これまで私たちは,東北電力グループDX推進方針のもと,データやデジタル技術を安全かつ効果的に活用するためのDXプラットフォームの整備や,DX人財育成に向けた教育・啓発活動を進めてきました。その結果,業務効率化や生産性向上のみならず,安全・技術継承,データ活用による業務高度化など,さまざまな分野で成果が生まれつつあります。また,DXの取り組みは既存事業の変革にとどまらず,2026年7月には「宮城AIデータセンター」を開所するなど,DX・IT事業の拡大にも積極的に取り組んでいます。こうした取り組みは,当社グループの新たな成長機会を生み出すとともに,地域のデジタル基盤強化につながっています。

そして今,私たちは,これらの成果を土台として,DXの新たなステージに挑戦しようとしています。AIを業務効率化の手段として活用する段階から一歩進み,AIとデータを事業運営に組み込むことで,意思決定のスピードと質を高め,新たな価値創出を実現する「AI駆動の事業経営」を目指し,取り組みをさらに加速してまいります。本レポートでは,グループ全社員の皆さまには,さらなる変革に挑戦するきっかけとして,お客さまや当社を志望する学生などの皆さまには,AIやデータを活用し,より良いサービスや地域の未来づくりに挑戦する当社グループの姿として,ご覧いただければ幸いです。

**私たちが最終的に目指しているのは,デジタル化そのものではありません。AIとデータの力を最大限活用し,人がより付加価値の高い仕事に挑戦できる環境をつくることです。そして,DXによる生産性向上と新たな価値創出から生まれた人財や経営資源を,さらなる挑戦と成長に活かし,地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。**

# DX Report 2026の位置付け

本レポートは,東北電力グループDX推進方針とDX推進計画を踏まえ,当社グループが目指すDXの姿を「経営」「業務」「現場」の3つのモデルとして具体化するとともに,その実現を支えるデータ・AI基盤や人財,推進体制などを取りまとめたものです。

これらの取り組みを共有することで,社内各部におけるDX施策の検討・実行を後押しするとともに,当社グループのDXに向けた歩みと挑戦を社外の皆さまに広くお伝えすることを目的としています。

本レポートが,当社グループのDXへの理解を深め,ともに新たな未来を創り出していく契機となるとともに,変革と価値創出に挑み続ける当社グループにご期待いただければ幸いです。




**DX Report 2026（本誌）**

- DXに関して,これまでの当社の取り組みや将来に向けた発展の姿を取りまとめたもの。
- 当社の経営層・社員,社外のステークホルダーと当社のDXの現状と目指す姿を共有するもの。

**DX推進計画**

当社グループにおいて，当該年度に DX 等に関して実施する予定の施策概要や計画，想定リスク,効果等を整理して取りまとめたもの

**東北電力グループDX推進方針**

よりそう next+PLUS で掲げた定量目標達成，経営基盤強化の観点から，足元の経営課題への対応に向けた DX における重点取組事項を設定

# 中長期ビジョン実現に向けたDX推進

「よりそうnext+PLUS」において,ありたい姿の実現を目指すため,電気・エネルギーを中心に据えた事業において自律的に収益と成長を追求する方針を整理。また,CN・DXを成長の機会として捉え,イノベーションなどを通じた既存事業の強化・拡張や新たな事業領域の拡大にも挑戦していく。




**東北電力グループ中長期ビジョンの実現を加速する強力なドライバーとして「DX推進」を位置づけ,グループ全体で変革に挑戦している。**

# DXで目指す姿

## 東北電力グループを取り巻く環境

### 労働人口の減少
- 日本全体の労働人口減少
- 東北・新潟地域の高齢化

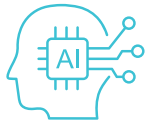
### 不透明な経済先行き
- 中東を含む国際情勢の不安定化
- 資機材や労務費等のコスト上昇

### 財務基盤が回復途上
- 震災等により毀損した財務基盤
- 利益・投資・成長の好循環の形成が必要

×

## DX・AIの取り組み

### 生成AIの活用（AIエージェント）




### DX・AI基盤



### セキュリティ・ガバナンス



▶

## 2030年の姿

### 経営・業務の変革

#### 経営
- 意思決定スピードアップ(AI駆動型経営)
- 投資・成長の好循環サイクルの実現
- 戦略・イノベーションへのシフト

#### 業務
- デジタル化によるコスト構造改革
- 業務・ビジネスプロセスの変革
- 変革マインド・競争意識の醸成

#### 現場
- 人はマネジメント・戦略領域へ業務シフト
- 作業は人からロボット・システムへ代替

# DX・AIプラットフォーム

データ・AI基盤の初期整備を完了し26年度はAIエージェント活用を加速している。加えて社内の業務データ×AIの仕組みを構築中であり27年度から段階的に拡大していく。

**AIエージェント**

**将来**

- データに基づく迅速かつ高度な意思決定により企業価値を最大化するAI駆動経営を目指す。
- AI・AIエージェントを単なる効率化ツールではなく,経営・業務・現場を一体的に高度化する経営基盤として活用する。

**26-27年度**

**26年度実装 AIエージェント**

- **秘書AI　・プレゼンテーション作成AI**
- **重要会議アシスタントなど**

⇒事例集を参照

**27年度実装 AIエージェント**

- **業務情報×AI**
  社内業務情報を活用したAIエージェントを実装し,段階的に拡張

**AI基盤**

**汎用AI・AIエージェント開発ツール**



**見える化ツール**



✓**複数のAIエージェント開発ツール等を整備**

**データ基盤**



データベース

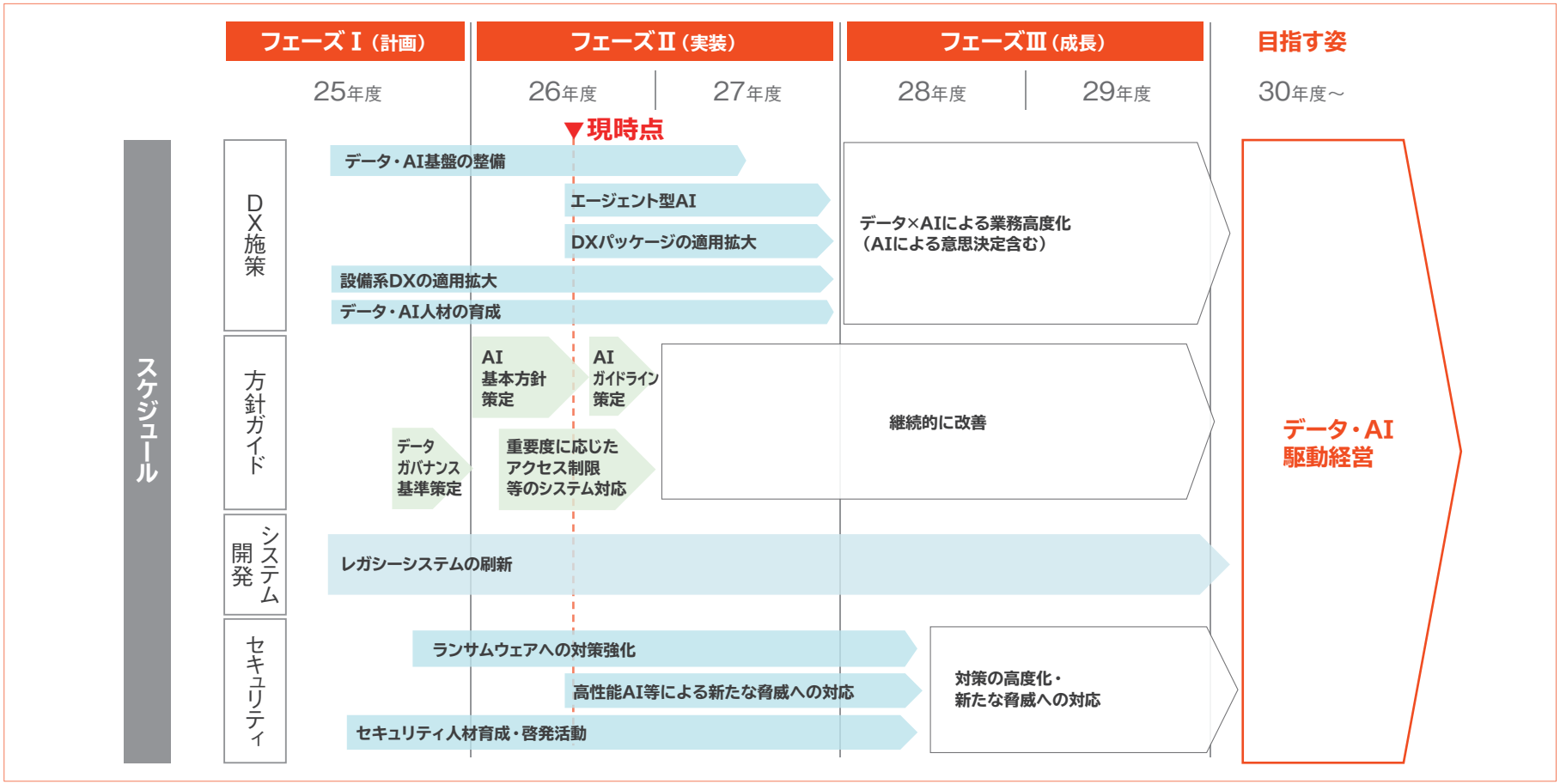
✓**様々な形式の社内データを集約できるデータ基盤整備を進めており,26年度初期整備を完了し運用を開始。**

✓**社内ニーズの高いデータを優先しながら継続的に拡充していく。**

**社内の形式が異なる様々なデータ**

# スケジュール

**フェーズⅠ**：変革モデルの検討,基盤整備計画を策定済み
**フェーズⅡ**：データ・AI基盤の整備・拡張,AIエージェントやDXパッケージの実装,業務変革による効果創出（現時点）
**フェーズⅢ**：全社変革による成長,地域・お客さまへの成長モデルの展開
これらを進めて,30年度にはデータ・AI駆動経営を実現



# 事例紹介

## Case Studies





# 経営モデル

Innovation





経営モデル
Measure
01

# 経営管理業務の高度化

横展開の可能性
- 単独部門
- 複数部門
- 東北電力
- 東北電力ネットワーク
- グループ企業

**As-Is**

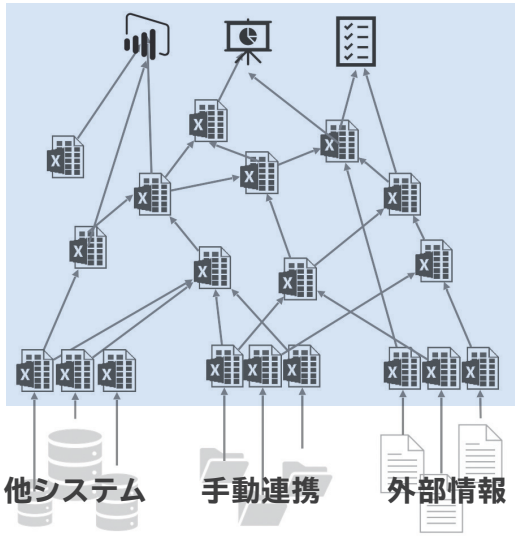
・経営管理に必要な数値情報の算定業務に，多くの人数が携わり，多大な時間を要している等，経営層への情報伝達に時間を要している。
・算定に必要な前提諸元が社内各部署に偏在している事に加え，複数のツールを介している。
・足元の状況変化等を踏まえた，機動的な算定が困難。

**To-Be**

・システム構築にあたり，業務プロセスの構造化・標準化を進め，算定作業を省力化・迅速化。これにより経営層への情報伝達スピードが改善。
・経営判断に必要な情報がデータ基盤上に整理され，経営ダッシュボードとして高頻度のモニタリングにも対応。
・複数シナリオに基づくシミュレーションにより，リスク予見性が向上し，高度な経営意思決定をサポート。

Overview

## 算定業務から経営報告までをデータでつなぎ，「同じ数字」で議論できる基盤を構築




現行業務は複雑化，多大な時間を要する

システム構築

**経営ダッシュボード**

**分析・シミュレーション**

**算定業務**

・算定作業の省力化・迅速化
・シミュレーション機能等により経営意思決定をサポート

リリース時期：2027 年 10　月 グループ戦略部門，経理部他

経営モデル
Measure
02

# 重要会議アシスタント

| | |
|---|---|
| 横展開の可能性 | 単独部門 |
| 複数部門 | 東北電力 |
| 東北電力ネットワーク | グループ企業 |

**As-Is**

・会議事前準備や議事録作成に多くの工数が発生している。
・重要会議では正確性担保のためさらに工数が増大している。
・会議運営が十分にナレッジ化されず属人化している。

**To-Be**

・重要会議で想定される QA を自動生成し，事前準備の負荷を軽減。
・会議内の質問に対し，リアルタイムで回答を作成。
・音声データからの議事録の自動生成により，品質向上，および業務効率化を実現。

Overview

●【AI による高度化】会議に関する業務（事前準備・議事録・共有）を AI で自動化・高度化
●【外販展開】当社大規模会議体用に開発で得た知見を基に，汎用的な会議支援ソリューションとして展開
●【社内活用展開】外販に加え，将来的には社内の多様な会議体での利用も視野に入れた仕組みとして整備

## 提供機能
Provided functions

### 会議準備支援（想定問答作成）




網羅性の高い質問および
回答を効率的に作成

### 会議運営支援（リアルタイム回答）




社内外の各種会議等における
当日の運営負担を軽減

### 議事録作成支援（高精度速記録）



議事録作成に伴う作業量を削減

リリース時期：2026 年度 TD 全店

経営モデル
Measure
03

# 監査・ガバナンス高度化AI

横展開の可能性
- 単独部門
- 複数部門
- 東北電力
- 東北電力ネットワーク
- グループ企業

**As-Is**

・監査業務では，経営会議・取締役会資料や議事録など大量の情報を確認するため，監査観点でのチェックに多くの時間を要している。
・意思決定後のフォロー状況や再発防止策の進捗確認について，担当者の知見に依存する部分も多い。

**To-Be**

・AIが会議資料・議事録・関連文書を横断的に分析し，リスク観点でのチェックや論点整理等を支援することで，効率化と品質向上を目指す。
・担当者の情報収集・確認作業を削減し，指摘・助言へ集中。

Overview

## 監査・ガバナンス業務の高度化を目的として，生成AI・AIエージェントを活用した業務支援機能を提供

### 提供機能
Provided functions

- ●会議資料の網羅性および妥当性チェック
- ●社外取締役向け情報の整理・要約
- ●過去事例や不祥事事例を踏まえたリスク観点の抽出
- ●意思決定後の継続的なモニタリング支援

これにより，監査業務における情報整理・確認工数の削減と，ガバナンス機能の強化を図る。




リリース時期：2027年4月 TD全店





# 業務モデル

## Transformation





業務モデル
Measure
01

# AI Work Assist（秘書AI）

| 横展開の可能性 | |
|---|---|
| 複数部門 | 東北電力 |
| 東北電力ネットワーク | グループ企業 |
| | 単独部門 |

**As-Is**

・業務内容や目的に応じて，複数のシステムや情報源を使い分ける必要。
・必要な情報の検索や手続きの確認など，各種業務に手間を要している。

**To-Be**

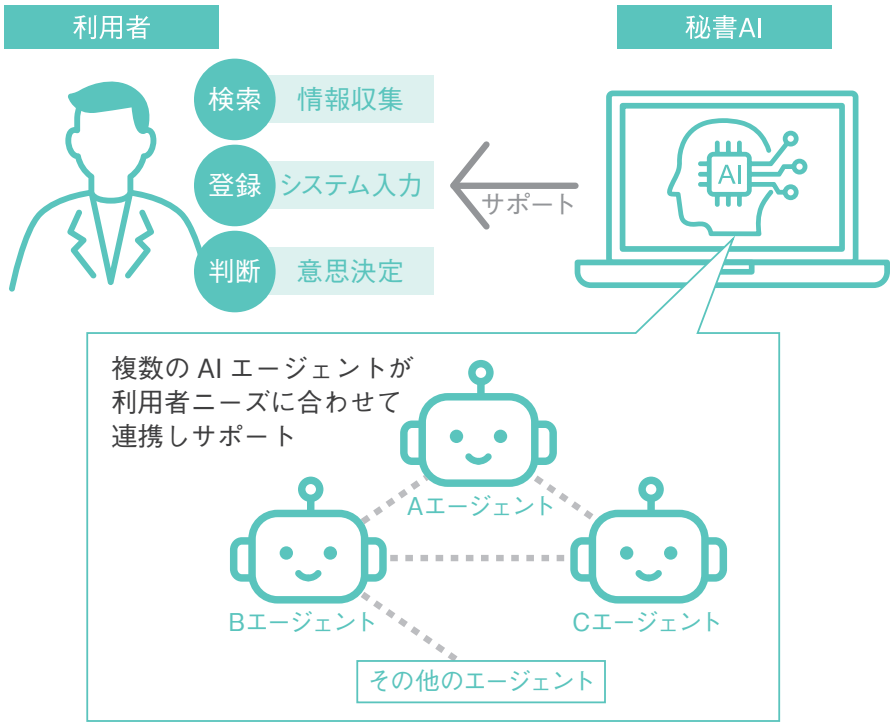
・一つのポータルから必要な情報や支援機能を利用できる環境を整備。対話を通じて必要な情報を容易に取得できるようにし，情報活用や業務遂行の効率化を図る。
・定型的な業務は AI が支援し，重要な判断は利用者が行うことで，業務品質と生産性の向上を目指す。

Overview

**利用者が一つの窓口から必要な情報や支援機能を利用できる環境を整備**
**対話形式で情報収集や業務遂行を支援し，定型的な業務負荷の軽減と生産性向上を図る**

## 提供機能
Provided functions

- 情報検索・活用支援
- 情報整理・要約支援
- 業務遂行支援




リリース時期：2026 年度 TD 全店

業務モデル
Measure
02

# プレゼンテーション作成AI

| | |
|---|---|
| 横展開の可能性 | 単独部門 |
| 複数部門 | 東北電力 |
| 東北電力ネットワーク | グループ企業 |

**As-Is**

・資料作成が手作業に依存し時間を圧迫。AI 活用も自社フォーマット対応に限界がありゼロベース作成が常態化。情報は個人 PC や部門内に分散し検索性が低くサイロ化。資料作成業務の属人化・暗黙知化が進み，思考・判断など本来業務に充てる余力が不足している。

**To-Be**

・資料作成の負荷を AI で大幅削減し，人は「作業」から「思考」へシフト。戦略立案や意思決定など高付加価値業務に注力することで生産性を向上。さらに優良資料のナレッジ化により暗黙知を継承し，属人化やノウハウ喪失を防ぎつつ，高品質・短時間での資料作成を実現。

Overview

**各部門での活用が想定されるプレゼンテーション作成業務および事務手続入力業務に生成AIを適用**
**過去の資料を学習した上で，東北電力および各部門の仕様にマッチしたパワーポイント資料を生成**

## 提供機能
Provided functions

- ●テンプレートから作成
  事前に登録された PowerPoint テンプレートや指定形式に沿って構成・文書・図表まで一気に作成
- ●スタイルから作成
  登録済みのデザインスタイルをもとに，レイアウトの自由度が高いスライドを作成
- ●元資料から作成
  既存の PPTX ファイルをアップロードして，チャット形式で AI に修正や改善を指示

プロンプトを入力




資料を自動生成




リリース時期：2026 年 9 月 TD 本店

業務モデル
Measure
03

# 基準等・文書文字チェックAI

| 横展開の可能性 | |
|---|---|
| 複数部門 | 東北電力 |
| 東北電力ネットワーク | グループ企業 |

**As-Is**

・旧文書と新文書の変更箇所の確認・転記や，複数文書用語・表記揺れの確認・修正を手作業で行っている。

**To-Be**

・AI が文書の比較・整理を支援することで，手作業による確認作業の効率化を実現。
・見落しの防止や，作業レベルの均一化を図る。

Overview

## 比較する文書の内容に応じて，次の2つの機能を利用できるWebアプリ

### 提供機能
Provided functions

●新旧比較表作成
旧文書と新文書を比較し，変更箇所を抽出・可視化。比較結果をブラウザ上で確認し，新旧比較表として出力

●ドキュメント一括クリーンアップ
置換ワードリストを基に，複数文書の用語や表記揺れを確認・統一。元文書と処理結果を比較し，統一後の文書を出力




リリース時期：2027 年 1 月 水力部，原子力部他

業務モデル
Measure
04

# 社内ドキュメント検索AI

横展開の可能性 | 単独部門
複数部門 | 東北電力
東北電力ネットワーク | グループ企業

**As-Is**

・業務にあたって，社内文書（規程基準，マニュアル，部門資料など）を確認する際に，各ポータルサイトより検索。
・文書を開いてから確認対象部分を探索。

**To-Be**

・知りたい社内ルールや手続きを自然文で質問するだけで，該当する文書や手順が一発で見つかる（たとえば「出張申請ってどうやるの？」と聞くだけで，関連規程や申請フローが表示）

Overview

## As-Is

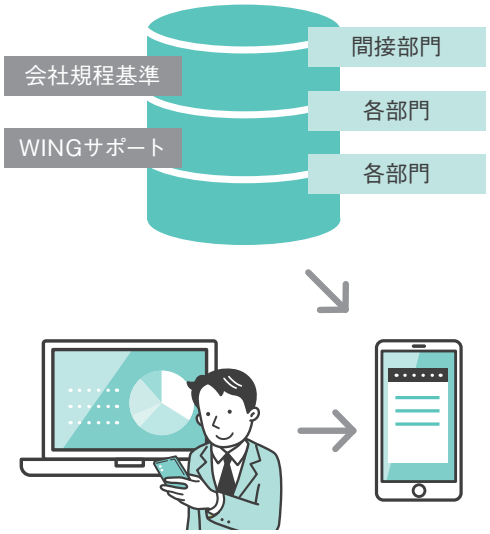
あの契約規程どこだっけ？
資料が多すぎて
見つけられない…





災害時の復旧手順や，過去の点検報告書が見つからない…

## To-Be






過去の企画書や資料は文書検索のチャットで質問すればクイックに見つかる！

リリース時期：2025 年 4 月 TD 全店

業務モデル
Measure
05

# 議事録作成AI

| 横展開の可能性 | 単独部門 |
| --- | --- |
| 複数部門 | 東北電力 |
| 東北電力ネットワーク | グループ企業 |

**As-Is**

・社内外含む各種会議，打合せにおいて，会話内容のメモを取り，自席にて議事録として文書校正を行っている。
・会議中に音声を録音し，後で聞き返しながら議事録を作成している。

**To-Be**

・会議の録音音声を AI に取り込むことで，自動で文字起こし・議事録案が作成され，メモ取りや文書校正の負担を軽減する。
・議事録案が自動生成されるため，録音を聞き返しながら作成する手間が不要となる。

Overview

## As-Is



ミーティングが多くて全部議事録を取るのが大変…



作業報告書を書くのが毎日大変…

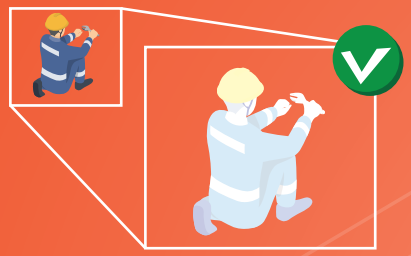
## To-Be



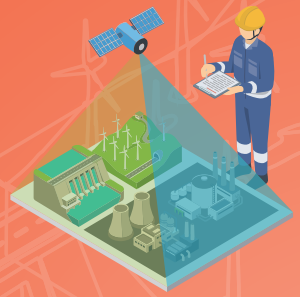

作業中に状況を録音しておくことで，議事録 AI で文字起こしして報告書を自動作成。
残業からの解放！

リリース時期：2025 年 4 月 TD 全店

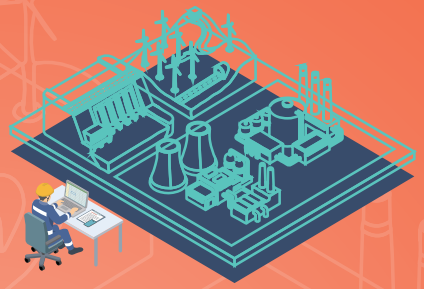
1 多様な技術活用による
労災リスク低減と安全性向上



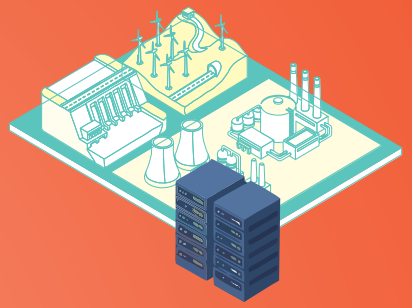
3 異常・災害時における迅速な
状況把握と対応・復旧力の強化



5 3Dモデリングデータ等の活用に
よる効率的な設備保全



7 設備・現場情報を統合した
仮想空間の実現



# 現場モデル

Smart



2 データ・ナレッジの共有による
技術の見える化と継承



4 設備・現場状態の常時監視と
データ活用による状態把握の高度化



6 デバイス・ロボットを活用した
現地作業の省力・効率化



8 スマート保安を支える最適な
通信環境の確立

現場モデル
Case Study
01

# ロボット・AI技術を活用した設備パトロール自動化

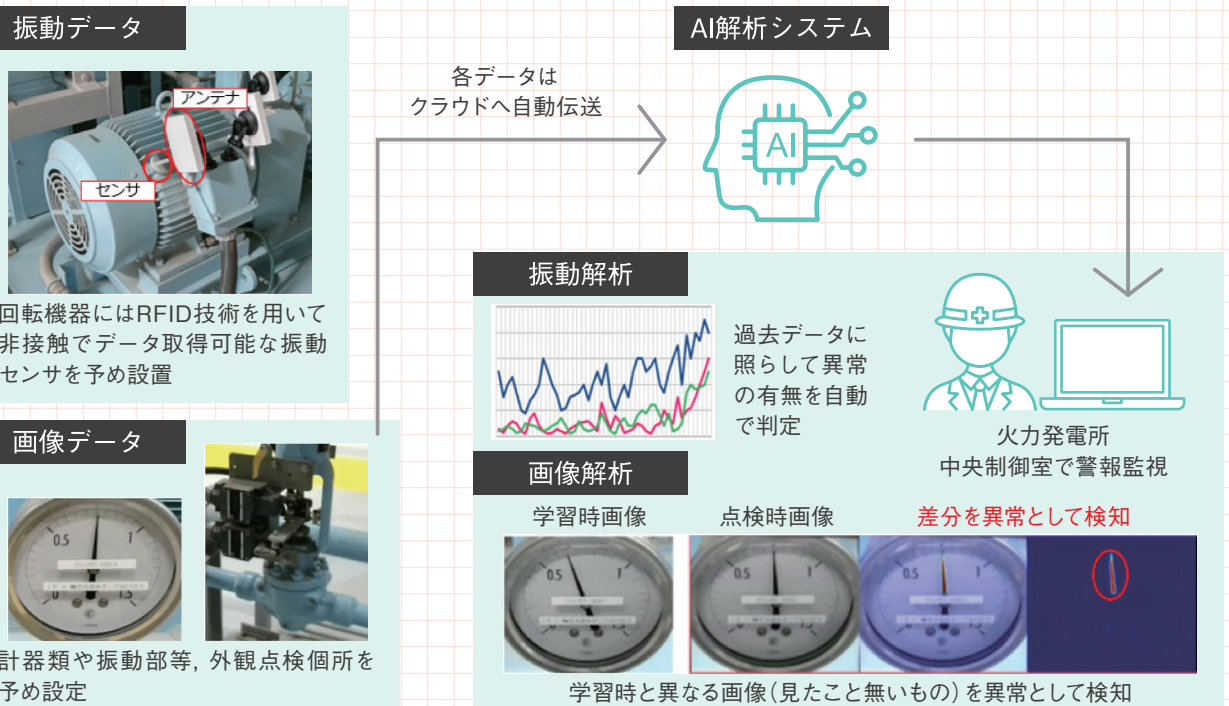
火力部門

1 安全性向上 | 2 技術の継承 | 3 復旧力強化 | 4 高度な状態把握 | 5 設備保全効率化 | 6 現地作業省力化 | 7 現場仮想空間化 | 8 通信環境確立

Purpose
目的

## 設備異常の早期発見と パトロール業務の効率化

・これまで人間が行っていた火力発電所内の設備パトロールをロボットや AI 技術で支援
・陸上ロボットが指定したルートを自動巡回し計器の画像や回転機器の振動データを取得し，それらをクラウド上の AI で自動解析し結果を通知
・上越火力発電所 1 号機（新潟県上越市）に導入し，システムの改良を継続しており，様々な部門へも展開していく






＼ こんな現場におすすめ ／
**導入検討ガイド**
For these types of sites

- ●日常の点検業務にかかる人手や時間を削減したい
- ●さまざまなデータとこれまでの知見を用いて，監視業務を高度化したい
- ●Wi-Fi 等の通信環境を活かして，点検業務を自動化・省力化したい　等

プレスリリース：「火力発電所における設備パトロールの自動化」の取り組みについて～上越火力 1 号機に最新の自動パトロールシステムを導入～｜東北電力

現場モデル
Case Study
02

# 不安全行動者検知AIカメラ

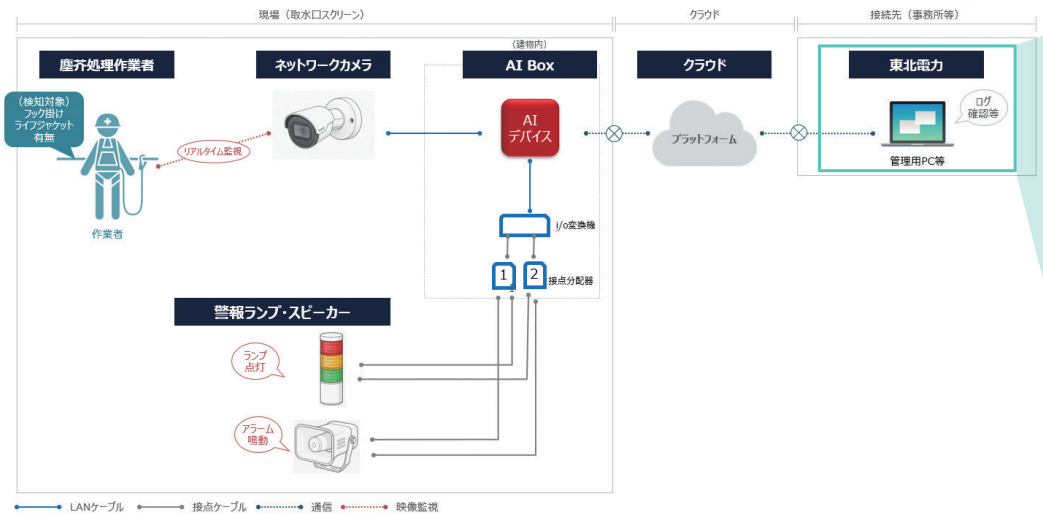
水力部門

1 安全性向上 | 2 技術の継承 | 3 復旧力強化 | 4 高度な状態把握 | 5 設備保全効率化 | 6 現地作業省力化 | 7 現場仮想空間化 | 8 通信環境確立

Purpose
目的

## 作業現場での不安全行動者検知による労働災害抑止

・汎用クラウドカメラを活用し, AI による不安全行動検知で労働災害抑止を図る施策
・特に墜落・転落災害防止を目的に, 現地検証を実施
・検知対象となる不安全行動の検知パターンを段階的に拡大しながら検知精度や現場適用性を評価中




【イメージ】

**《正常判定》**（ライフジャケット着用○, フック掛け○）



**《異常判定》**（ライフジャケット着用×, フック掛け×）



＼ こんな現場におすすめ ／
**導入検討ガイド**
For these types of sites

●墜落・転落リスクのある作業個所で, 安全対策の強化を検討している
●墜落制止用器具の使用状況確認や不安全行動の検知・注意喚起を行いたい
●汎用クラウドカメラを活用し, 遠隔監視や映像保存・安全教育に役立てたい　等

現場モデル
Case Study
03

# 労災防止AIの全体像

DX推進部（火力部門）

1 安全性向上 | 2 技術の継承 | 3 復旧力強化 | 4 高度な状態把握 | 5 設備保全効率化 | 6 現地作業省力化 | 7 現場仮想空間化 | 8 通信環境確立

Purpose
目的

**各施策の将来的な連携・統合による全体最適をい据えて，更なる安全意識の向上と災害の未然防止**

・「労災防止 AI」,「安全 DX」,「労災事例 DBシステム」の３施策を展開・検討中
・AIを活用した現場安全管理支援（労災防止 AI）では，過去の労働災害データから AIで事例を抽出・提示し，作業時の注意点や安全対策の気づきを提供することにより，現場の危険予知活動を支援

**労災防止AI**

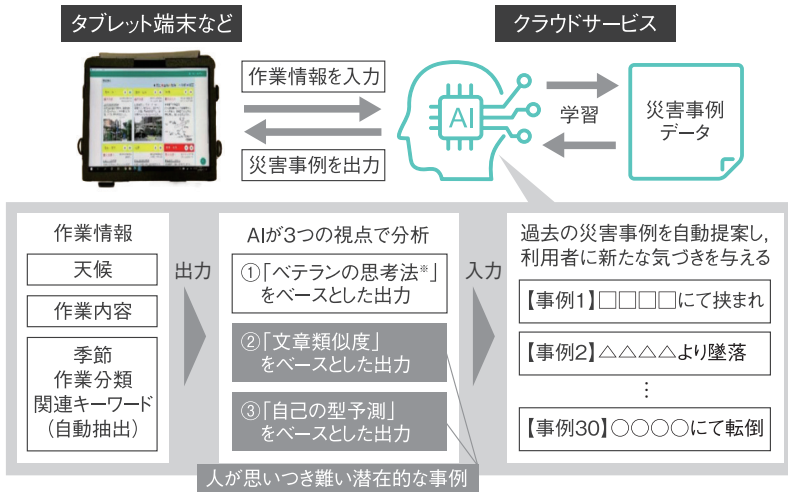
＋ 機能追加

**安全DX（リスク可視化AI）**

データ連係（将来）

**労災事例DBシステム**

AIを活用した現場安全管理支援（火力部）




※実際に現場作業に精通したベテラン作業員が，AIから提案された事例と当日の作業との関連性が高い事例を選ぶ（=フィードバック）ことを何度も繰り返し，AIにベテランの思考を学習させたことで再現。


TBM-KYにおける類似災害事例の抽出


TBM-KYにおける類似災害事例の抽出

＼ こんな現場におすすめ ／
**導入検討ガイド**
For these types of sites

●過去災害事例を安全活動に十分活用できていない
●作業前の危険予知や TBM-KY の質を高めたい
●ベテランの安全知識や経験を若手へ継承したい　等

プレスリリース：当社火力発電所におけるＡＩを活用した「現場安全管理支援ツール」の運用開始について～ＡＩ技術を活用し，「繰り返し型労働災害」の根絶を目指す～｜東北電力

現場モデル
Case Study
04

# 危険個所のヒートマップ表示AI

DX推進部

1 安全性向上 | 2 技術の継承 | 3 復旧力強化 | 4 高度な状態把握 | 5 設備保全効率化 | 6 現地作業省力化 | 7 現場仮想空間化 | 8 通信環境確立

Purpose
目的

**現場写真を活用した危険個所の可視化による安全意識向上と安全対策強化**

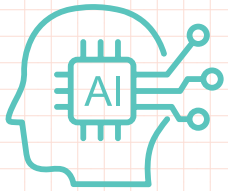
・作業現場の写真を入力することで, AI が分析し危険が想定される個所を抽出
・潜在的な危険個所をヒートマップで可視化し, 作業前の注意喚起や教育に活用
・危険要因や対策文, 確認履歴を蓄積し, 安全ナレッジとして共有

## 画像と作業内容をインプット



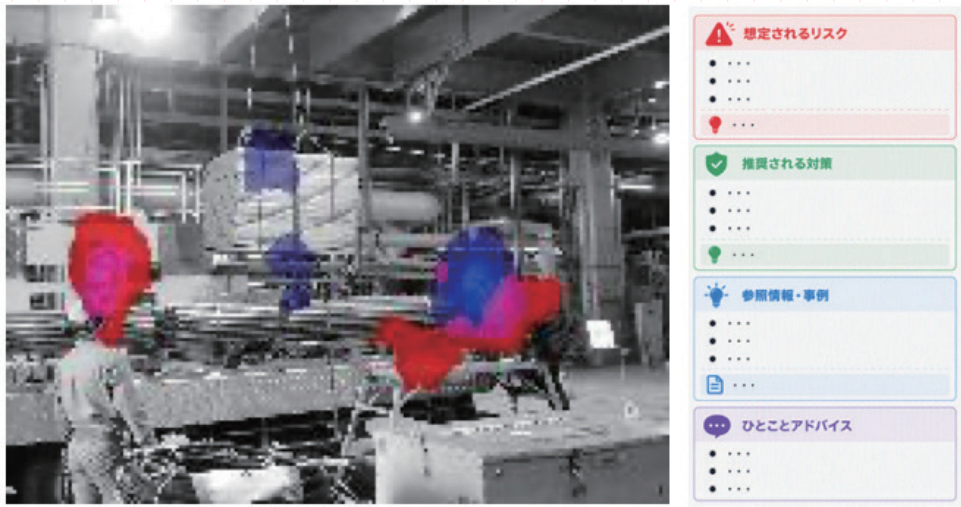
現場の写真を撮影

## AIが分析




・ChatGPT（LLM）
・天候
・アドバイス
・過去労災情報
・各種リンク…

## 危険個所をヒートマップで可視化，注意ポイント等を提案






＼ こんな現場におすすめ ／
**導入検討ガイド**
For these types of sites

●現場作業前に危険個所を視覚的に確認したい
●新人教育や危険感受性向上訓練を高度化したい
●災害事例や現場写真を活用し, 再発防止策を検討したい　等

現場モデル
Case Study
05

# ドローンによるパトロール業務省力化

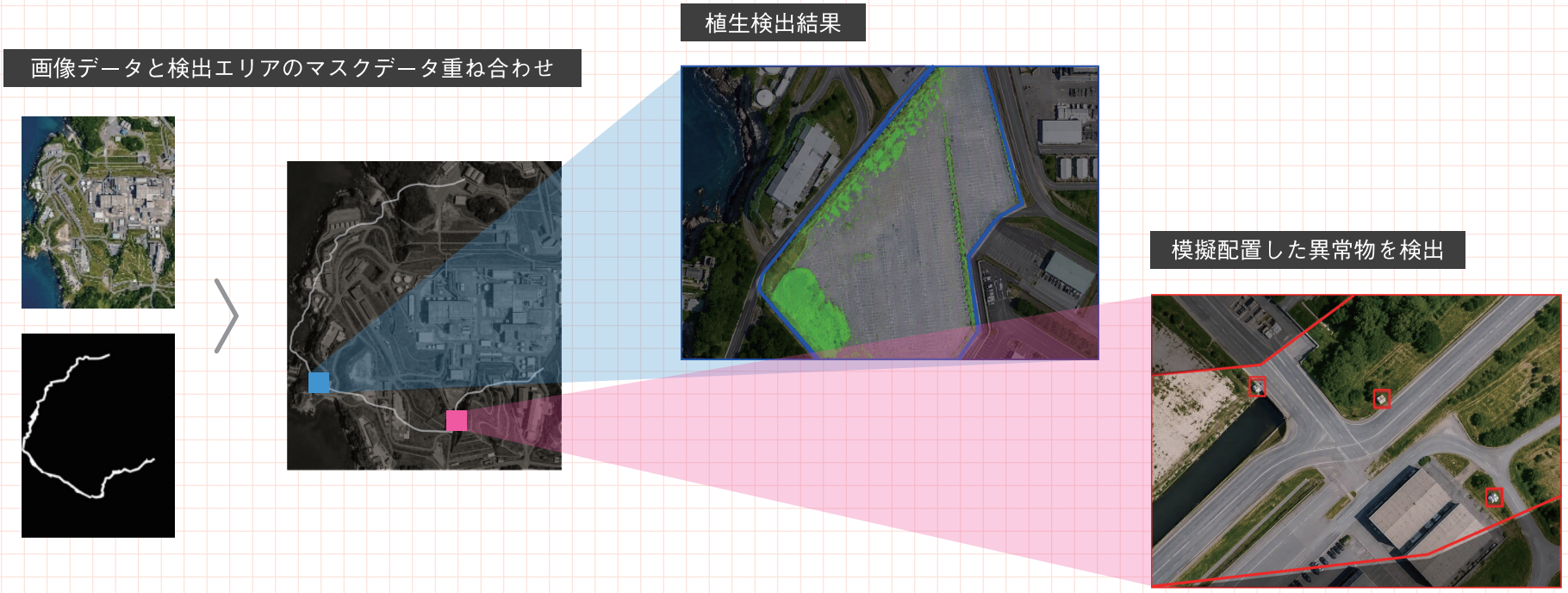
DX推進部

1 安全性向上 | 2 技術の継承 | 3 復旧力強化 | 4 高度な状態把握 | 5 設備保全効率化 | 6 現地作業省力化 | 7 現場仮想空間化 | 8 通信環境確立

Purpose
目的

## 発電所内の定期パトロール業務の負荷軽減

・広域エリアの負荷が大きい人手に依存したパトロールから，安全性・効率性の両立を目指す
・ドローンで取得したオルソ画像や 3D 点群データ等を AI で解析し，物品配置や違反状態などの異常を自動判定
・オルソ画像や 3D 点群データを活用し，現場状況の可視化と遠隔確認を実現




＼ こんな現場におすすめ ／
**導入検討ガイド**
For these types of sites

●広い構内や屋外エリアの巡視に多くの時間を要している
●作業員が立ち入りにくい場所を安全に確認したい
●空撮画像や３D データを活用し，現場状況を効率的に把握したい　等

現場モデル
Case Study
06

# 3Dモデリングデータを活用した設備保全等の効率化

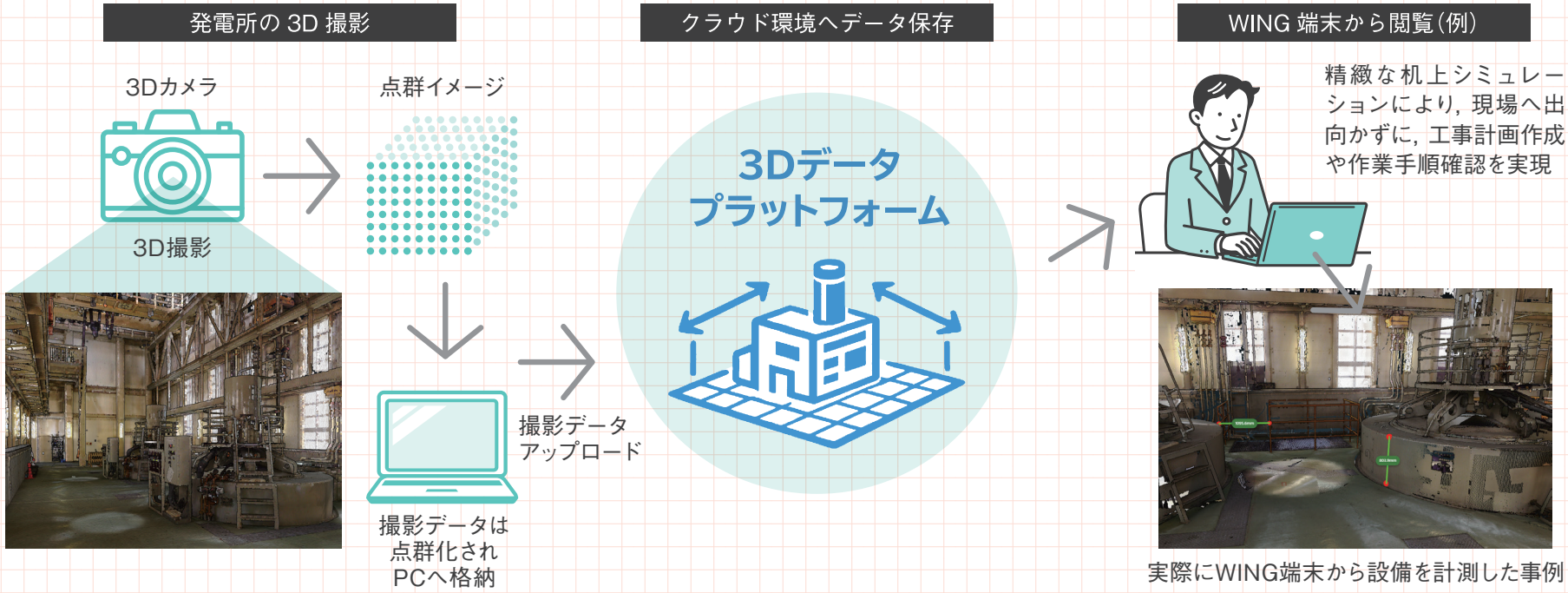
DX推進部
（火力・原子力・水力部門）

1 安全性向上 | 2 技術の継承 | 3 復旧力強化 | 4 高度な状態把握 | 5 設備保全効率化 | 6 現地作業省力化 | 7 現場仮想空間化 | 8 通信環境確立

Purpose
目的

**現場状況の直感的な把握と各種シミュレーションによる設備保全の効率化**

・3D レーザースキャナー等で現場を撮影し，設備や建屋の 3D モデリングデータを作成
・現地状況を机上で確認することで，現地出向業務を削減
・大容量 3D データをクラウド上に保管し，将来的なデジタルツイン構築へ活用




＼ こんな現場におすすめ ／
**導入検討ガイド**
For these types of sites

●現場確認や設計検討のための出向を削減したい
●搬出入や足場設置などの作業計画を事前にシミュレーションしたい
●現場状況を 3D で可視化し，関係者間の認識合わせを効率化したい　等

現場モデル
Case Study
07

# 発電所の通信ネットワーク

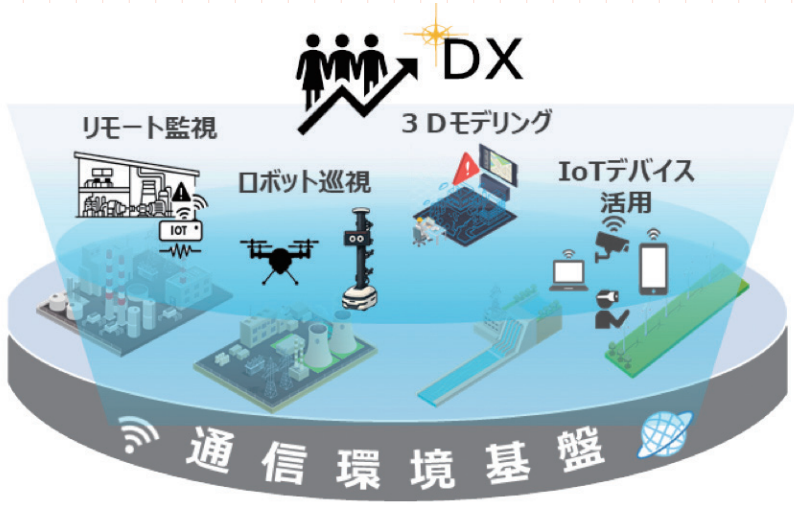
DX推進部
（火力・原子力・水力部門）

1 安全性向上 | 2 技術の継承 | 3 復旧力強化 | 4 高度な状態把握 | 5 設備保全効率化 | 6 現地作業省力化 | 7 現場仮想空間化 | 8 通信環境確立

Purpose
目的

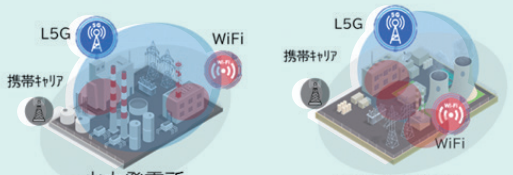
**発電所構内の通信不感地帯を解消し，保守・運用業務の高度化**

・水力・火力・原子力発電所における Wi-Fi やローカル 5G, 衛星通信等の通信環境整備を推進
・WING 端末, 内線スマホ, IoT カメラ, 各種センサー等の活用に必要な通信基盤を整備
・通信不感地帯を改善し, 現場 DX, データ活用, 保守・運用業務の効率化を支援

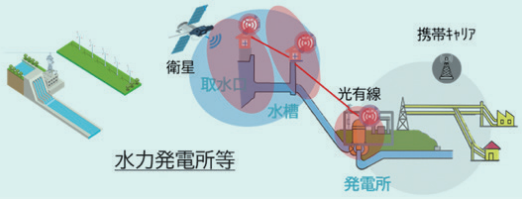



主管部のDX施策を踏まえトークネットサービスを活用しながら最適な通信環境を整備

光有線をバックホールに建屋内はWi-Fi, 屋外はローカル5GとWi-Fiのハイブリッドにより通信環境を提供




光有線や衛星, 携帯キャリア電波をバックホールにWi-Fiや有線LANにより通信環境を提供




＼ こんな現場におすすめ ／
**導入検討ガイド**
For these types of sites

●発電所構内にスマホや IoT 機器が使えない通信不感地帯がある
●センサーやカメラを活用した設備監視・現場確認を進めたい
●通信環境整備を起点に, 保守・運用業務の DX を推進したい　等

現場モデル
Case Study
08

# 広域傾斜検知システム

TN土木建築部門

1 安全性向上 | 2 技術の継承 | 3 復旧力強化 | 4 高度な状態把握 | 5 設備保全効率化 | 6 現地作業省力化 | 7 現場仮想空間化 | 8 通信環境確立

Purpose
目的

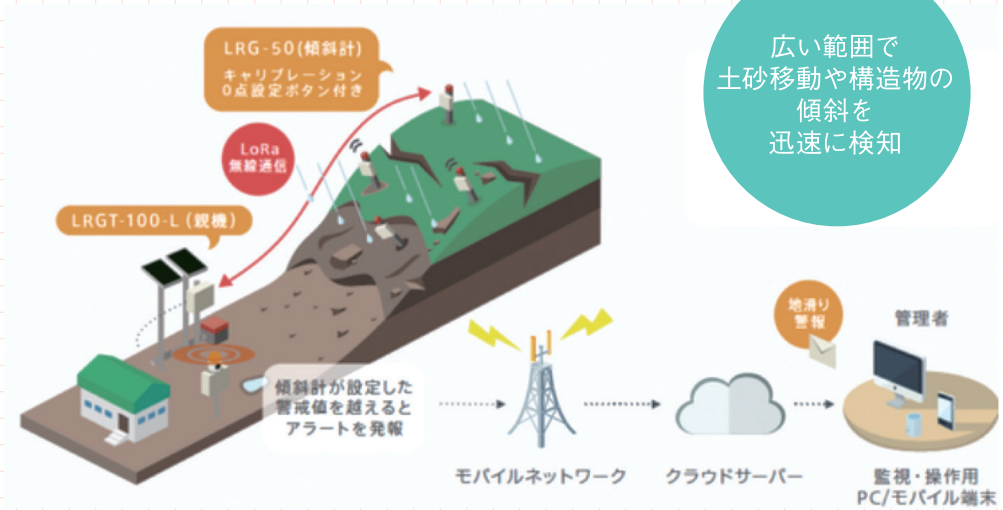
**現場作業員の安全確保と災害対応の迅速化**

・斜面に設置した傾斜センサーにより，地面のわずかな動きを常時監視
・異常な傾きが発生した場合，長距離無線通信やモバイルネットワークを通じて現場と事務所へ即時通知
・傾斜計の警報音により現場作業員の速やかな退避を促し，土砂災害リスクを低減

## 広い範囲の地すべりや構造物傾斜を迅速に検知




システム概要図




＼ こんな現場におすすめ ／
**導入検討ガイド**
For these types of sites

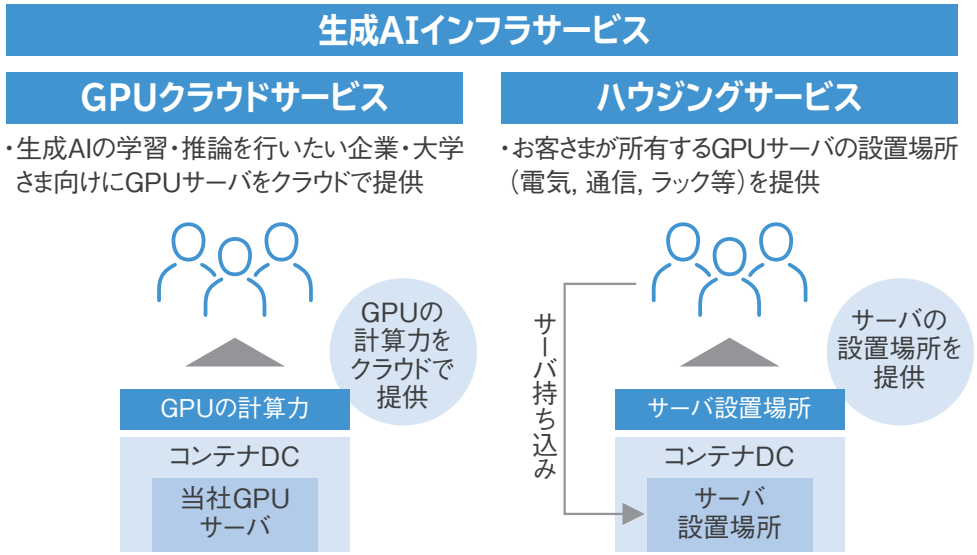
●地すべりや斜面崩落の危険がある現場で作業している
●傾斜状態を常時監視し，異常時に早期通知したい
●災害発生時の初動対応や作業員退避を迅速化したい　等

# 新たな価値創出

## Value creation

# データセンター事業（生成AIインフラサービス）

DX推進部では，生成AIインフラサービスとして，2025年のGPUクラウドサービスの提供開始を皮切りに，
今年度，宮城AIデータセンターを開所し，GPUサーバ向けのハウジングサービスを提供開始しました。
今後は他社との連携を拡大し，東北6県・新潟県へ拠点拡充を目指してまいります。









## 【生成AIインフラサービス】

| 提供開始時期 | 展開 | 補足 |
|---|---|---|
| 2025年2月 | GPUクラウドサービスの提供開始 | 設計の柔軟性が高く，短期間で構築可能なコンテナ型データセンターより提供。<br>提携企業：株式会社ゲットワークス，株式会社GXテクノロジー |
| 2026年7月 | 次世代型高性能GPUサーバーに対応したハウジングサービスを提供開始 | 宮城県宮城郡七ヶ浜に「宮城AIデータセンター」を開所。<br>提携企業：株式会社ゲットワークス |

# グループ企業DX推進に向けた活動

グループ企業各社が，それぞれの事業特性や課題を見つけデジタルを活用して業務変革を実現すべく
３つの施策を通じ，各社の主体的な挑戦と自律的なDX推進を構想から実装・定着まで支えます。

**コア業務DXで各社の事業を変え，共通業務DXでグループ企業の仕事と基盤を変え，DX推進サポートで変革を担う人財と環境を支えます。**

3つの施策を連携させ，個社で生まれた成果を標準化・横展開するとともに，新たな課題と知見を次の取り組みへ還流させることで，
グループ企業の自律的かつ持続的なDXを実現します。

## ①コア業務DX

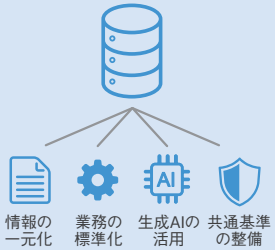
### 各社の事業を変える



- 各社の中核業務を可視化し，優先テーマを選定
- 課題整理～PoC～実装まで一貫して支援
- 業務効率向上・コスト削減・事業競争力強化
- 新たな価値創出を実現

## ②共通業務DX

### グループ企業の仕事と基盤を変える




- 共通業務・情報を標準化・一元化
- 生成AIを安全かつ効果的に活用できる共通基盤を整備
- 業務品質と生産性を向上
- 成功事例を迅速にグループ企業へ横展開

## ③DX推進サポート

### 変革を担う人財と環境を支える




- DX推進の相談窓口と伴走支援
- ツール・ナレッジ・事例を提供
- 人財育成と啓発により変革を促進
- 各社が自ら課題を発見し，変革を継続できる環境を整備

### 成果の標準化・横展開



個社で生まれた成功事例やノウハウを標準化し，グループ企業へ横展開

### 3つの施策の連携による好循環




### 課題・知見の還流



新たな課題や知見を収集・分析し，次の取り組みや施策に反映

**グループ企業の自律的かつ持続的なDXを実現し，持続的な成長と新たな価値創出へ**

# 東北大学との人財育成協定

東北電力，東北大学経済学研究科および東北大学ナレッジキャストにおいて，以下の協力体制および役割の中で，ＤＸ人財の育成および地域共創に向けた活動に取り組む。

**東北電力DX推進部**

**インターンシップ企画・受入**
・学生・大学院生へのビジネスフィールド・研究課題の提供



**東北大学 経済学部**
**大学院経済学研究科**

**DX専門教育プログラムの提供**
・学生・大学院生へのインターンシップの斡旋

・事務局（運営支援，全体調整）
・インターンシップ学生のメンタリング

東北大学
ナレッジキャスト

・産学連携活動のアクセラレーション

**本協定により育成した現場での実践経験を持つDX人財とともに地域課題解決や新たな価値共創を目指す**

## データサイエンスインターンシップ

東北大学の学生を対象にインターンシップを実施。実務を基にしたデータを用い，**分析業務をはじめとした課題解決に向けた一連のプロセスを体験し**，デジタル変革に対応するスキルの習得を行う。



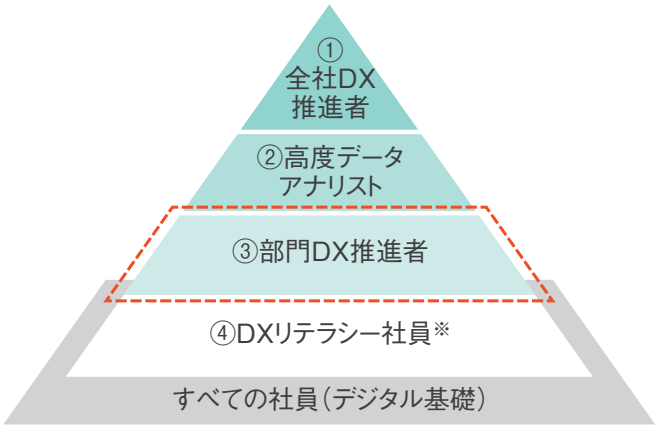
# DX人財の成長ストーリー

DX推進部では，DX人財を「実践を通じて成長し，組織変革を牽引する存在」と位置付け，社員のDXリテラシー向上と各部門で新たな変革を生み出す人財の育成に取り組んでいます。2026年度からは，教育や資格取得に加え，DX施策への参画や効果創出を重視し，育成の軸足を「学習」から「実践」へと進化させています。

今後は，とくに部門DX推進者の育成に注力することで，各部門において変革を牽引する人財を継続的に輩出し，グループ全体のDXをさらに加速していきます。

## DX人財は成長・浸透の度合いを認定で把握

DX推進に必要な人財を育成し，
変革に挑戦する組織基盤を築く




※ITパスポート保有者

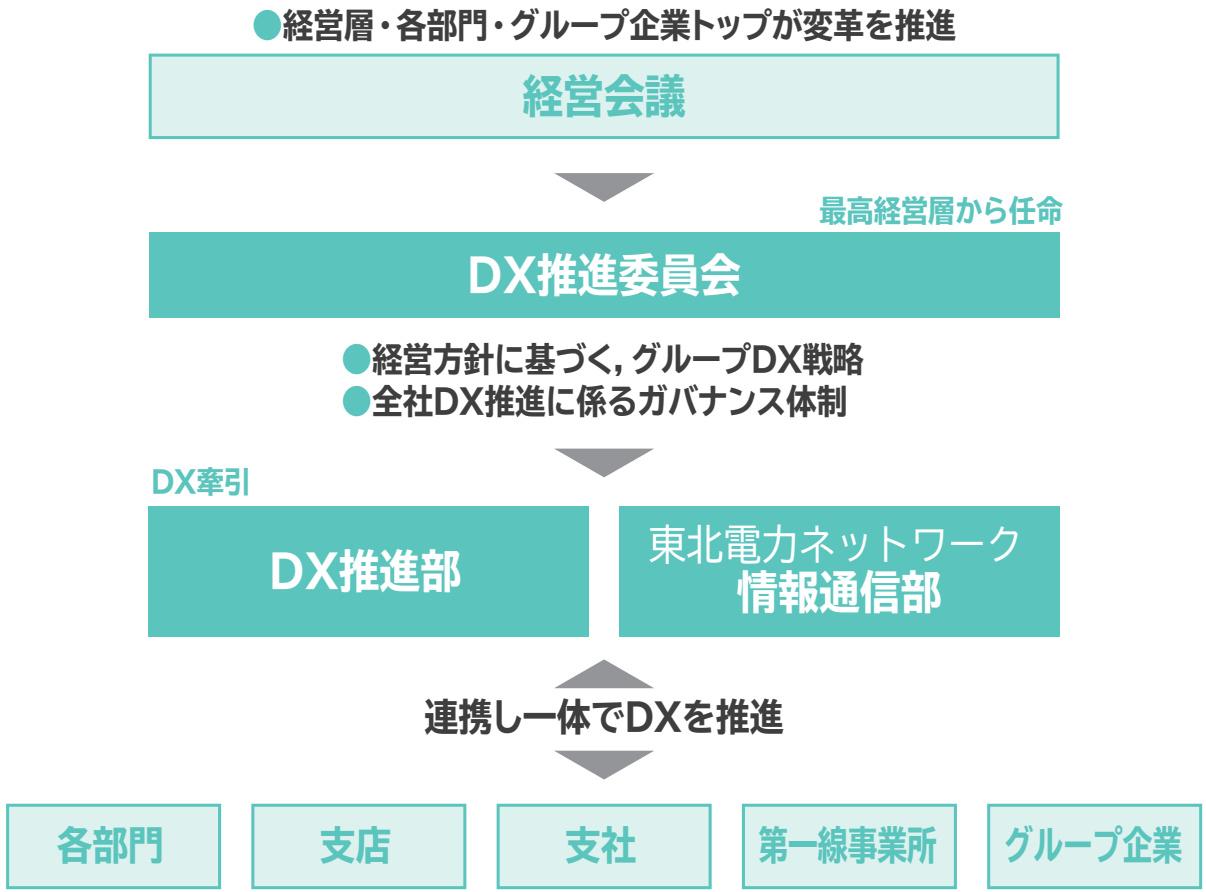
| 分類 | ランク | 認定条件 |
|---|---|---|
| ①全社DX推進者<br>②高度データアナリスト | ★★★ | 教育受講＋資格取得＋DX施策参画（効果評価） |
| | ★★ | 教育受講＋資格取得 ☆☆ 教育受講＋DX施策参画（行動評価） |
| | ★ | 教育の受講 |
| ③部門DX推進者 | ★★★ | 教育の受講＋資格取得＋DX施策参画（効果評価） |
| | ★★ | 教育受講＋資格取得 ☆☆ 教育受講＋DX施策参画（行動評価） |
| | ★ | 教育受講 |
| ④DXリテラシー人財 | ★★ | ITパスポートなどの対象資格取得 |
| | ★ | 教育受講＋テスト完了・DXコンテスト参加 |

| 分類 | | 30年度目標 | 26年3月実績 |
|---|---|---|---|
| ①全社DX推進者 | | 50 | 47 |
| ②高度データアナリスト | | 50 | 36 |
| ③部門DX推進者 | 企画者 | 1,300 | 173 |
| | 実行者 | | 719 |
| ④DXリテラシー社員 | | 6,000 | 4,828 |

※当社では「人材」を「人財」と表記。

# DXの推進体制

経営層のリーダーシップの下，DX推進委員会において，グループDX戦略の立案やガバナンス体制を進め，全社横断でDXを推進する体制を構築し，各部門およびグループ企業と連携しながら，DXを推進しております。



# まとめ（DXの現在地と力点）

2024年4月にDX推進部が発足して以来，全社員を対象とした教育・啓発活動をはじめ，データ・AI活用に関するルール整備，多様な形式のデータを利活用できるデータ基盤の構築，さらには汎用AIの導入やAIエージェント開発環境の整備を進めてまいりました。その結果，当社グループのDXは具体的な業務変革と成果創出を加速する段階へ移行しています。

今年度は，「経営」「業務」「現場」の各領域において，AIエージェントをはじめとするデジタル技術の導入・展開をさらに進め，意思決定の高度化，業務プロセスの変革，現場の安全性・生産性向上につなげていきます。こうした取り組みを通じて，人とAIがそれぞれの強みを発揮し，より高い価値を生み出す新たな事業運営の実現を目指します。

今後も，AI駆動経営の実現を目指し，経営層，幹部社員が率先して推進することで，当社グループ全体でDXへの挑戦を積み重ね，その成果をお客さまや地域社会への新たな価値の提供につなげてまいります。



# DX Report 2026

DXを成長のちからに
地域の未来へ

TOHOKU
ELECTRIC POWER
DX PROMOTION